

令和5年度三島市食育推進会議 会議録

日時	2023年8月30日(水) 14:30~16:00
場所	三島市保健センター東館1階
配布資料	【事前送付資料】 <ul style="list-style-type: none">・会議次第・資料1 第2次三島市健康づくり計画実施計画(令和4年度)実績報告・資料2 第2次三島市健康づくり計画実施計画(令和5年度) 【当日配布】 <ul style="list-style-type: none">・席次表、委員名簿・資料3 令和5年度食育推進事業について・資料4 令和3年度健康づくりに関するアンケート調査報告書・第2次三島市健康づくり計画の冊子

1 委嘱状交付

12名に交付(欠席者6名には後日郵送)

2 市長挨拶

本日、三島市食育推進会議を開催したところ、委員の皆様方には、ご多忙の中ご出席いただき厚く御礼。これまでコロナ禍の中、感染防止の観点から黙食や孤食などが求められるなど、皆で楽しく一緒に食べる共食の取組みができず、また、生産者との交流ができないなど、食育推進上、大変厳しい環境が続いてきた。ご存知のとおり食育は、口腔内の健康、生活習慣病予防、こころの健康などと関係が深く、健やかな心身の保持・増進に大きく影響します。また、明るい家庭や豊かな地域づくりにも繋がるもの。コロナによる食生活の変化が、市民の健康に悪影響を及ぼすことを大変危惧している。5月以降、コロナも5類に移行。感染対策に十分な配慮は必要なものの、いよいよ本格的に食育を推進できる環境が整ってきた。

本日は、意見交換のテーマとして、「食育の認知度や関心度の低い層へのアプローチ」について議題とさせていただいた。市では、コロナで事業が思うようにできない中、工夫の一つとして導入した「ベジメータ」という野菜摂取測定機器を活用し、今年度から企業への出張測定を強化することで若年層への啓発に取り組んでいる。また、新たにJAの「みしまるかん」でも測定を開始した。会議終了後、皆様にもご体験いただきたい。委員の皆様方には、それぞれの専門的見地から、忌憚のないご意見・ご提言をお願い。

<会長・副会長の選任>

会長は日本大学短期大学部食物栄養学科の篠原委員、副会長は三島市医師会吉富委員に決定。

3 会長挨拶

コロナが5類に移行して、要は食育等、ずっと停滞気味だったところが、今年から一応仕切り直しという形になるんだろうとは思いますが、今回のこのウクライナ等の問題を受けて、いろんなものが高くなってきていて、特にやっぱり食料品の高騰というところで、やはり食費を削るっていうのは意外と一番早く市民の皆様、私自身もそうですけれども、食ってというのはやっぱり一番そういうところで締めてしまうっていう部分があるので、なかなかうまくいかないもんだとは思っておりますけれども、皆様方のご意見をいただきながら、またこの食育を高められるように、会議の方を進めていきたいと思っております。

4 議事

- (1) 第2次三島市健康づくり計画(食育基本計画)令和4年度実績について(資料1)
- (2) 第2次三島市健康づくり計画(食育基本計画)令和5年度実施計画について(資料2)

<事務局説明>

<各課長説明>

<質疑応答>

【A委員】令和4年度の実績の子ども保育課の、給食の時間の食育指導が毎月保育園で、栄養士による食育講話が、幼稚園と保育園というふうな形で、こころの関係を教えてください。

⇒【子ども保育課長】給食時間の食育指導に関しましては、公立保育園につきましてはすべて給食を一律のメニューで提供しているので、その中で統一したもののお話ができるものですから、今日はこういう食材なのという話を、栄養士が方からしているわけですね。幼稚園につきましては、今公立幼稚園で言いますと、各自ご自身でお弁当を用

意してくる方と、お仕事をされてる方もおられる時代になってきてますので、そういうところで仕出し弁当をとって食べる子と混在してるような状況です。なので、一律に今日はこういう食材ですよということではないものですから、子どもの食べる物が幼稚園に関しては、食事に差があるというのが実情でございます。そのようなことからこのような表示になっていると思います。

【A委員】 そうしますと、保育課の栄養士さんがお話しに行くっていうのは給食の時間に行ってるわけではない？

⇒【子ども保育課長】 給食の時間に行っているわけではなくて、調理実習も兼ねて、そういうものをしたり、ちょっとす劇みたいなのもやったりしながら、食に対する理解を深める栄養士の食育講話っていうものは、別途、給食時間とは別にやっております。

【A委員】 それが食育講話の方ですよ。それから、給食の時の食育指導っていうところもおそらく回数があるのではないかな。

⇒【子ども保育課長】 それは適宜随時やってもらっている。普段から公立保育園につきまして大分食育の方の保育士の認知も上がってきておまして、通常の保育の中でそれはもう普段からやっていることになりますので、何で表示としても毎月、そういうものは適宜やっていますよということですね。保育園につきましては、年間の中でも、食育計画というものを立てて、実践をしているところです。

【A委員】 それで多分そういう形で実践は結構されているんだろうと思ったところで、調理体験を実施している幼稚園保育園の割合っていうのが、遅延というふうな形での予測になっておまして。もっと達成できるんじゃないかなというふうに思った次第なんですけれども。一応、令和、この遅延と順調のその何%目標値に達しなかったら遅延なのかっていうところの線引きはちょっとわかんないんですけど。

⇒【豊田室長】 この指標の、幼稚園保育園の割合は、健康づくり課が保育園幼稚園に呼ばれてやっている実績だけ算入しておまして、これ健康づくり課調査が数値の根拠となっておりますので、こちらに保育園、幼稚園さん独自の取り組みっていうのは含まれていない状況となっております。

【A委員】 そうなんです。だから実際的にはもっと高いということに。

⇒【豊田室長】 そうですねやってるかやってないかっていう単純な話で言えば、自分でやっていた部分がありますので、高くなってくると思いますが、この指標の数値はあくまでも健康づくり課が行ってやらせていただいているかどうかというところの割合となっております。

【A委員】 10年計画で5年で見直しということになってくるときに、次の見直しの時には何かちょっと指標っていうのを変えた方が実際的には、おそらくもっとやられてるんじゃないかなと思ったものですから、その確認をさせていただきました。

(3) 市の主な食育関連事業について

＜事務局説明＞（資料3）

＜質疑応答＞

【B委員】 小学校になるのに向けて学校給食が楽しみになるようなお話をしに行っているという。ご報告がありましたけれども、それは園内すべての幼稚園保育園に対してお知らせがあったものですか。私は今日ここに参加させていただいたので、それを知ったんですけれども。知らない幼稚園保育園もあるっていうことでしょうか。お願いすれば来ていただけるといえることでしょうか。私立幼稚園の仲間に、そういうふうに報告を入れても良いでしょうか。

⇒【豊田室長】 大丈夫です。

【B委員】 それでは、みんなが申し込むかどうかごめんなさい、わからないですけどもそういうことを、三島市はしてくださってるんだよということ報告の中で入れさせて頂きます。

⇒【子ども保育課長】 そよかぜ風学習のこと、周知が行き届いてないようで、大変申し訳ございません。また我々の方から、先生方の派遣をしていろんな講義をしていただけるような仕組みがあるものですから、また改めて皆さんに周知していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

【C委員】 今のこの報告をお聞きしまして、すごく感心したことは、キャロットポテトの会の方が何名くらいで、現場をどのような形で、皆さんが接して、得たもの等を知らせていただければ、何か私も他の事いろいろやっているのでありがたいと思っております。

⇒【湯川委員】 人数は17人でやっています。みんないろいろなものを、職業を持ったりしてはいますが、出る人は出る、出ない人でない人は出れないということでやっています。何かみんな楽しくやっています。子どもたちの反応はすごくいいです。いろんなことを質問したりして、それに答えてやったりしています。

【A委員】 野菜を使ったレシピを開発し測定の時だとかいろんな場面で配布したと書かれておりますけれども、これは誰が開発をした、何か募集があったということでしょうか。

⇒【健康づくり課担当】 野菜のレシピは募集ではなく、健康づくり課の栄養士の方で開発して、そちらを配布しています。

【D委員】 先生のお野菜のお話の続きになるのですが、ベジメータ測定非常に面白いなと思って、野菜摂取量見える化できるので、これ簡単に目で見て足りてないなとか分かるかなと思ったんですけど、月1回という理由の部分と、常時できないのかなっていうところと、職員張り付かないとちょっとっていうところであれば、もうちょっと広報とかい

ンスタとか、フェイスブックなんかで、ベジメータの測定毎月第2木曜日にみしまるかんでやってるよみたいなPRしていただくと、市民にも届いてくるかなと思ったので、ちょっとご意見の方をさせていただきました。

⇒【健康づくり課室長】月1回の理由としましては、単純に人工的なお話で、人がついてないといけないので、毎日ってわけにはいかないの、いいところで月に1回、野菜摂取量をチェックすればいいかなってところで設定させていただいております。おっしゃる通りインスタとかいろんな媒体を通じて、周知していくというところが課題だと思ってますので、担当にも頑張ってもらって、やっていこうというふうに思います。

【A委員】せっかく予算をかけてリースをされているので、また、資料の方にも実績として、どのくらいあって参加どのくらいかかっていうのがあると、このくらい活用されてるのかなっていうふうなものがあるの、そのようにしていただくとありがたいかなと思います。

【E委員】この離乳食講習会や料理教室等に使われる食材っていうのは、市内で生産されたものを選んでるとかはありますか。またこの産地でとれたものだとかというのが参加された方への公表はありますか。

⇒【健康づくり課担当】すべてが地元の食材というわけではなく、食材は地元スーパーから購入しています。

【F委員】先ほどのベジメータの話と関係するのですが、みしまるかんで野菜の売り上げも上がったとかあったりするんでしょうか。そういうことがあると、スーパーさんでもぜひやってみたいという声が出そうな気がするんですけど。

⇒【健康づくり課室長】特にそういうデータはとっていないんですけども、やっている感じとしてはそれほど影響がないかなという印象ではあります。今のところが十分摂れている人は継続していただいて、C判定とかそういう方々は、もうちょっと摂っていただくといいですよということで、もし良かったらそちらで売っていますのでみたいなお話をさせてもらっています。

⇒【A委員】もともと多分摂取量が多い方々なので、多分あんまりそこは関係ないというところですよ。でも逆にこのような形で活用していくというのは、非常に面白いかなとは思っています。だからどこかスーパーさんと協力して下さる、経済的な効果を見るとちょっと大変だろうとは思いますが、そういうところがあったりすると、非常にこのベジメータが別の面で有効かなということが評価できると思います。

(4) 意見交換 テーマ：18歳から30歳代の若年層など食育の認知度や関心度の低い層へのアプローチについて

<意見交換のテーマについて趣旨説明> (資料4・健康づくり課担当)

【D委員】18歳から30歳の若年層に対する食育の認知度関心度の低い層へのアプローチっていうところは理解できたんですけども、18歳から30歳って、年齢の幅も広いですし、今先生がおっしゃったように、どういふ方を対象にターゲットにしていくかによって、アプローチの方法が変わってくると思います。18歳から30代の若年層というざっくりしたくりだと、イメージが湧きづらいと思ったところです。

【A委員】逆に具体的にまだない。また、それぞれやっぱりとらえ方っていうのが違うということで、皆さん方、委員の方が考える18歳から30歳代というふうな感じでご意見をいただいてもいいのかなと思いました。例えば私は料理男子というのがありますがね。そういう積極的にお料理をする子たちがいればSNSとかで取り上げてみるとかも一つかなとは思っていました。

【B委員】意見交換のテーマが18から30代って言ったときに、私のイメージは大学に行っている方は、三島市であるならば日本大学と、順天堂大学ですけども、学校の生徒さんは18から22かなと。だから学校を通して、市のこういう取り組みがあるよということを示し板に貼っていただくなどが良いと思う。社会人だと先程も企業に出向いてということがあります。あと掲示物となると若い人が行くところでコンビニに貼ってあれば目にとまるのかなと思いました。

【G委員】学校給食の面では、将来を担って子どもたちのために、やはり低学年の時から給食等で、もう少し食育について事業をやっていくべきかなと思います。18歳から30歳だと、自分の子もいるんですけど、手軽に食べたいとか時間がないからとか、本当にどうやって栄養バランス考えているのと言っても、とにかくお腹を満たしたいみたいなところも多かったりするので、また、手軽に食べられるようなコンビニを利用することも多かったり、スーパーの中でも、総菜を取ったとしても、どういう形で等、プラスして野菜を取るのかななどを少しお話しするといいなかなと思いました。あと、食べる時間も違うとか、規則正しく食べて、それが将来、の継続的なところに繋がっていくということも大切なかなと思います。

【C委員】私、市のごみ減量アドバイザーを二期やらせていただいたんです。そのときに、若い方がごみの減量とか全然意識がないもので、コンビニとかスーパーの前でチラシを分けたりしたんです。これを考えたときに、この年代は本当に自分で作らなくて、コンビニで買っているの、コンビニやスーパーの方の了承を得ないといけないのですが、チラシとか啓発の仕方っていうのは直接自分で目で見て、そういう形でやったら、今、マイバックがもう浸透してきて若い人も袋を持ってくようになったので、そういうところから入っていくのがいいのかなと思いました。

【F委員】最近デジタルサイネージをレジのところにデジタルで載せてくれるっていうのもあるので、そういうのもありとお話を伺いながら思いました。ただ、お金がかかる。あとちょっと切り口は違うんですけども、健康日本21で国の健康づくりの方でも自然と健康になれる環境づくりがやっぱり必要だよ、意識が高い人が知識を得ていくと、どんどん格差が広がっていってしまうからっていうので、環境づくりが大事だよってことを言われているんですけども、そういう意味で言うと、食育ってことを意識しなくても、環境がそうならいけば、少しみんなが良い方に変わってくことはあるかなと思っています。静岡県でも野菜摂取量を増やすということで、昨年度三島市内の西原グループさんの

ご協力いただきまして、野菜マシマシ餃子っていうのを販売したんです。野菜って言われても食べないけど餃子だったら食べるんじゃないかっていうようなことで取り組みをして、アンケート結果だと、やっぱり女性だと。野菜が食べたいから買ったという人が少し多くて、そこはちょっと残念だったんですけど男性だとやっぱりあの餃子をた新しい餃子食べてみたいから買ったっていう方も一定数いて、そういった意味では、こういった働きかけもありだなっていうふうにも思ったことがあります。また今年度その次の取り組みとして、静岡県も後援してるんですが、今度西原グループさんが、野菜静岡県産野菜を使ったギョーザレシピコンテストっていうのを募集を開始しまして、何かそういうふうに、健康にいいんだよっていうアプローチというよりも何となく楽しいんだよみたいな雰囲気作りをしていくっていうのも、若い人にはいいのかなというふうにも思っています。

【A委員】この年代はあんまり健康のことに関しては全く関心がないという世代ですし、あともう一つは経済的にもやっぱりちょっとまだ大変だっていう部分のところもあってというところが、どうしてもネックになってくるんだと思うので、そこがもう少しハードルが下がって、気軽に、野菜にしても、他の食材にしても利用できることがあると、食育に関わらず利用率が高くなっていくのかなというふうにも思いました。

5 その他

【H委員】先ほどの分野別目標の達成状況の中で、朝食を取っている幼児児童生徒の割合が、実績値が令和4年98.3%ですね。バランスのとれた朝食をとっている幼児児童生徒の割合が37.8ですか。このバランスのとれた朝食っていうのは、これはどういう判断でバランスが取れているということでしょうか。

⇒【健康づくり課担当】バランスを取れた判断は、炭水化物と食、小学校とかでは簡単に黄色の仲間というんですが、黄色の仲間の食品、タンパク質。赤の仲間の食品で、野菜とか果物が緑の仲間の食品。その赤黄緑がそろった食品を食べたかっていうそういうふうなアンケートの聞き方をしています。

【B委員】今のアンケートの結果ですが、これ幼児児童生徒となっていますけれども、小学生なのか小学生の保護者に対してアンケートをとられたのか。それをお聞きしたい。市内のすべての幼児、児童生徒にアンケートしたならばこのパーセントが変わってくるのかなと。

⇒【健康づくり課担当】朝食の方は児童生徒については、小学生は5年生に。中学生の方は2年生の方で、朝食調査の方を前期と後期の2回、1週間ずつ行っています。

⇒【B委員】そうであるならば、具体的に何年生と書かないと、ここだけ見ると市内の幼児児童生徒っていうふうに見えてしまう。これだけだと達成状況として出したときに何だろうってなってしまうと思いました。

⇒【A委員】多分これはこの10年計画の中の5年の見直しの中の、一応目標という形で挙げられているところなんですけど、これ別紙でまたさらに詳しいところで資料をこういうふうな形で審議をするということであれば、そのような委員のご意見とかも含めていただけると。より活発な意見に繋がるかと思います。今回1回目ですので、次回の時にまたご検討いただければと思います。

閉会